

講義名	ブラッシュアップ中国語			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

すでに「言語と社会」、「中国語A」、「中国語B」などで学んだ初歩の中国語にみぎをかけ、さらに新しい語彙や文法を積み重ね、中国語の基礎をよりまとまりのあるもの仕上げていきます。レベル的には、中国語の初級から中級への橋渡しの位置づけになります。会話だけでなく講義の内容もありますので、中国語の総合的なレベルアップが期待できます。

到達目標

1. 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
2. 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる

中国語検定試験のレベルを目安とすると、4級レベルの中国語に相当します。検定試験4級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

とくに課題は予定していません

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で、講評します

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（出席状況、受講態度） 30%
 中間試験と期末試験 70%

履修にあたっての注意・助言他

この科目は、これまでに「言語と社会」、「中国語A」、「中国語B」などを履修し、すでに中国語の基礎を学んだ人を対象としています。中国語初心者向けの授業ではありませんので注意してください。中国語がはじめての方はまず「中国語A」や「中国語B」を履修してください。

必ずテキストを購入し、授業に臨んでください。受講態度として評価の対象とします。

教科書

『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講義』	白水社	竹島毅・趙昕	2500	9784560069349
---------------------	-----	--------	------	---------------

参考図書

その他

特になし

授業計画

1. 授業案内 ウォーミングアップ（復習）
2. 第6課 会話：授業は終わりましたか？
3. 第6課 講義：カラオケ
4. 第7課 会話：ご飯、食べましたか？
5. 第7課 講義：海へ行く
6. 第8課 会話：富士山に登ったことはありますか？
7. 第8課 講義：北京がすき
8. 第9課 会話：何をしているのですか？
9. 第9課 講義：運転を習う
10. 第10課 会話：どんな趣味をおもちですか？
11. 第10課 講義：コンパ
12. 第11課 会話：このくつはどですか？
13. 第11課 講義：アーム
14. 第12課 会話：誕生日おめでとう！
15. 第12課 講義：服を買う

予備：13課、14課、15課

テキストの6課からスタートします。1.5回～2回の授業で毎課を消化するペースを基本とします。受講生の習熟度に応じて適宜ペースを調整します。学期半ばで中間試験を実施します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成させてください。次の授業で学ぶところに目を通し、分るところと分からないところを、明確にしておいてください。テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください。

（以上、2時間程度）

【復習】

授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返り」を行ってください。ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります。

講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えます。

テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読みます。

（以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、言語学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的達成の基礎・人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟した「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

--